

チャレンジ！ ごみダイエット！

私たちの毎日の生活からは、さまざまなごみが出ます。大量生産、大量消費の社会構造、豊かで利便性を求める多様な消費生活によって、ごみの量は増え続けてきました。このような現状を変えるため、市ではごみの減量とリサイクルの推進に取り組んでいます。皆さんも身近なごみについて考えてみましょう。

札幌市の

いじみの現状

平成十四年度に市が処理したごみの量は約九十四万九千トン、そのうち約四十九万トンが家庭から出されるごみです。

この量は、平成十三年度より約九千トン（8.8%）増加し、市の人口増加率（0.7%）を上回っています。

市民一人一日当たりでは、廃棄ごみ657グラム、リサイクルごみ68グラムを排出しています。

家庭から出されるごみ袋一



個分（40リットル）を処理するには、百五十九円の費用がかかります。市全体で一年間に二百九十七億円、小学校なら十三校分の建設費に相当します。

このままごみが減らないと、埋め立て地の限界、清掃工場建設の巨額な費用、資源の枯渇、地球温暖化など多くの問題が生じます。

学校でも

ごみダイエット

澄川南小学校の四年生は、社会科の授業と総合的な学習の時間で、ごみ問題について学んでいます。

児童たちは、授業の中で「ごみの減量にはごみを出さないことが一番」ということを学びました。

学校のごみ置き場を見たときに、紙類のごみが多かったことから、紙の両面を使ったり、古紙回収に出したりと紙類のごみ減量を行いました。

次に、給食後の片付けをし

ている時に食べ残しの量を見て、これらを減らすことができないか考えました。

まずは、給食を残さないように、苦手なものも好き嫌いをせずに食べたり、残っているものを他のクラスに持っていったり、お返しにもらってきたりしました。それでも給食時間が終わった時には、食べ残しがありました。

そこで、食べ残しを有効利用する方法をみんなで考え、今年の七月から段ボール箱による生ごみの堆肥化に取り組み、夏休み期間中も交代して生ごみの堆肥化を続けました。

最初は、土の中にどのようなものを入れたらよいのかよく分からず大変でしたが、徐々に扱いに慣れ、秋には立派な堆肥が完成しました。

児童たちは、出来上がった堆肥を使って、来春、学校の花壇を花いっぱいにしようと楽しみにしています。



▲4年2組の堆肥化容器

何のための

ごみダイエット？

ごみの減量を行うことは、ごみの処理費用を少なくすることや、埋め立て地の利用期間の延長だけを目指しているものではありません。

地球にある資源は限られています。ごみの減量やリサイクルによって地球資源の枯渇など、解決しなければならぬいたくさんのことがあります。そのためにも、私たち一人ひとりが自然環境のためにできることを行っていくかなければなりません。

皆さんも未来のことを考えて、今まで以上のごみダイエットに取り組みましょう。



▶生ごみの堆肥化に

取り組んでいる児童たち